

# レスキューナーズからの メッセージ message



国際災害レスキューナーズ  
辻 直美

## いまの防災訓練はルーティンではないですか？

防災、減災と言うと何故か自分とは関係ないような気になっているのが、一般的な考え方です。

きっとそこには「自分は何があっても大丈夫」と言う勝手な思い込みがそうさせてしまうのでしょう。

防災の知識はアウトドアが好きな人にとっては、非常に身近なものとして捉えられます。消防の皆様は、体を動かすことやアウトドアの経験知識が豊富かと思えます。楽しみながらやっている、どんどん知識が増えます。その知識を実際に使うことで、さらに体に染み込みます。

アレンジすることだってできます。

アウトドアだったらできるのに、防災となるとなぜできないのだろう？

そこで私は考えました。防災教育自体が、堅苦しく考えすぎているのではないだろうか？実際に被災されて命を亡くしたり、いまだに避難生活を送られている人のことを考えると、堅苦しく真面目にやらなくてはいけないという思いが先行するのだと思います。

被災者に対しての畏敬の念や、気持ちを丁寧にかけて行動すること、自分が生き延びるために防災教育を捉える事は全く違うものです。防災教育自体を、もっと楽しく面白く興味深いものに変えてみるのはどうだろうか？

私は仕事柄、消防訓練や防災体験、防災教

育に立ち会うことがあります。しかし、どれもほとんどがルーティンで、実際の避難生活や防災減災には使えない机上論であるといつも考えます。

全国どこでもみんなおんなじ内容で同じ文言、そこには全然クリエイティビティも感じられないし、その土地だからこその考え方がなくてはいけないのに、要素として含まれていません。皆さんは実際に防災教育や消防訓練をしていて、いつもどう感じていますか？

自分が命をかけて守る住民のことを考えれば、住民それぞれが自分で考えて生き延びることができる知識と体験を与えること、これこそが本来の防災訓練ではないでしょうか？

もっと生きた防災訓練を！もっと楽しく学べる内容に変えていけるのは、現場で働く皆さんです。

私の開催する「生き延びる為のサバイバル講座」では、被災の現実を突きつける厳しい部分、防災を身近に感じるために、あるもので防災グッズを作り、使う楽しい体験。そして、いろんな知識を与え、ジャッジをしていくという体験を含めて開催しています。ぜひ一度、足を運んでいただきたいと思います。

そして、その前に皆さんの現場の意識と経験を生かした防災訓練を、ぜひ考え直してください。

